

高台寺かうだいじの林泉は豊太閣御靈舎ほうたいかふの下段方丈の東にあり、風光奇雅にして洞庭を縮の倂あり。旧此地は雲居寺岩栖院うんこじ金仙寺等きんせんじとうの古跡なり。当山の嶺を鷺峯わしのをといふ、鷺尾中納言隆良卿たかよしの山莊の跡によつて号るなり。慶長年中豊太閣の夫人高台院湖月尼公みんごけつにこうの營給ひ、則こゝに葬りて石塔婆あり。又其側に天哉翁長嘯墓てんさいおうちやうしやうを建る。御靈舎は宝形造にして内外莊嚴花美なり。長押の上に卅六歌仙を掲る、和歌は八条智仁親王筆、画は土佐光信とさのみつのみぶなり。秀吉公影ひでよしこう、政所尼公影まんどころ、三江和尚像さんかうおしやう、木下二位法印像きのした。「常光院殿二位茂叔淨英じやうくわうみんとんと号す」法印妻尼像さいにの。「雲照院齡岳永寿れいがくと号す」堀監物像ほりけんもつ。「千手院殿前城門郎傑山道英居士らくどう」されば当山は洛東の佳邑にして名区多し、春は桜花幽艶として匂ひ濃なり、夏は庭中の池の面に燕子花咲乱れ、又秋は萩の花錦を晒すが如く露深うして色をまし、鷺嶺の月皎々として鮮なり、冬は連峰に雪續紛と風に随ふて花を飛し、東坡とうばが白鳳に騎かと疑ひ、宋玉そうぎよくが幽蘭白雪の曲を作れるの勝地なり」

秋過あき高台寺かうだいじ見み芳宜花よしはな

龍 公 美

高台人かうだいじん静梵しやうぼん王家わが。烏雀群飛うさくぐんひ樹外霞じゆがいせま。

日暮放參鐘絶ひぐりほうさんしゆつ後。秋風摧あきかぜ紫鹿鳴花むらさきしかのうた。

九日環中禪師遊くじふにちくわんちゆうぜんじゆ蕉中和尚及余遊せうちゆうわうじやう高台寺上方かうだいじのうへ。余有あま故不ふる得え陪從ばいじゆう。

後読ごよみ其唱和詩そのしやうわし有感おんかん。因賦いんふ呈てい三師さんし。(寛政己酉春罹災鞠為荒場一矣)

佳賓佳節興佳哉。

詩為兼秋更帶哀。

百六數歸巴火。

金銀寺化漢地灰。

織亭避雨寒吹帽。

菊水試茶香滿杯。

正使シテ空門心不着。

堪看鹿跡上高台。

寛政己酉春高台寺罹災鞠為荒場矣。環中禪師辛勤重構。亡幾殆復。

旧觀功亦偉哉。

六如菴

巨厦支傾幸有人。

重榮花木挽回春。

唯除林表孤峰色。

二百年来事々新。

高台寺の花ざかりに

迷いてぞ世はおもしろき桜哉

定雅